

【第1部】(Q1~Q25)

- Q1. ▶ 答え：ア 句法は「再読文字」。書き下し「未だ知らず」。
- Q2. ▶ 答え：イ 句法は「再読文字」。
- Q3. ▶ 答え：ウ 句法は「再読文字」。
- Q4. ▶ 答え：エ 句法は「再読文字」。
- Q5. ▶ 答え：ア 句法は「再読文字」。
- Q6. ▶ 答え：イ 句法は「再読文字」。
- Q7. ▶ 答え：ウ 句法は「再読文字」。書き下し「応に解すべし」。
- Q8. ▶ 答え：エ 句法は「再読文字」。書き下し「宜しく退くべし」。
- Q9. ▶ 答え：ア 句法は「再読文字」。
- Q10. ▶ 答え：イ 句法は「再読文字」。
- Q11. ▶ 答え：ウ 句法は「否定」。書き下し「此れ道に非ず」。
- Q12. ▶ 答え：ア 句法は「二重否定」。書き下し「学ばざるべからず」。
- Q13. ▶ 答え：ア 句法は「否定」。
- Q14. ▶ 答え：イ 句法は「否定」。書き下し「彼遂に来たらず」。
- Q15. ▶ 答え：ウ 句法は「否定」。書き下し「一言も発せず」。
- Q16. ▶ 答え：エ 句法は「否定」。書き下し「我れ再び過たず」。
- Q17. ▶ 答え：ア 句法は「否定」。
- Q18. ▶ 答え：イ 句法は「否定」。
- Q19. ▶ 答え：ウ 句法は「二重否定」。書き下し「喜ばざるは無し」。
- Q20. ▶ 答え：エ 句法は「二重否定」。書き下し「驚かざるは無し」。
- Q21. ▶ 答え：ア 句法は「二重否定」。書き下し「備へざるべからず」。
- Q22. ▶ 答え：イ 句法は「二重否定」。書き下し「信ぜざるべからず」。
- Q23. ▶ 答え：ウ 句法は「二重否定」。書き下し「省みざるべからず」。
- Q24. ▶ 答え：エ 句法は「二重否定」。書き下し「救はざるべからず」。
- Q25. ▶ 答え：ア 句法は「疑問」。書き下し「何ぞ学ばざる」。
- Q26. ▶ 答え：イ 句法は「疑問」。書き下し「安くんぞ之を知る」。
- Q27. ▶ 答え：ウ 句法は「疑問」。書き下し「誰か能く之を解かん」。
- Q28. ▶ 答え：エ 句法は「疑問」。書き下し「君は何をか求むる」。
- Q29. ▶ 答え：ア 句法は「疑問」。書き下し「汝は之を信ずるか」。
- Q30. ▶ 答え：イ 句法は「疑問」。書き下し「子は安くんぞ之を知る」。
- Q31. ▶ 答え：ウ 句法は「疑問」。

- Q32. ▶ 答え：エ 句法は「反語」。書き下し「豈に君子ならんや」。
- Q33. ▶ 答え：ア 句法は「反語」。書き下し「安くんぞ能く之を為さんや」。
- Q34. ▶ 答え：イ 句法は「反語」。書き下し「豈に之を忘れんや」。
- Q35. ▶ 答え：ウ 句法は「反語」。
- Q36. ▶ 答え：エ 句法は「反語」。
- Q37. ▶ 答え：ア 句法は「反語」。書き下し「子は安くんぞ之を知らんや」。
- Q38. ▶ 答え：ア 句法は「疑問」。書き下し「何ぞ之を憂ふる」。文末に「ん（や）」がないので疑問（「何ぞ之を憂へんや」なら反語）。
- Q39. ▶ 答え：ウ 句法は「反語」。書き下し「安くんぞ虎子を得んや」。
- Q40. ▶ 答え：エ 句法は「反語」。書き下し「王侯将相、寧くんぞ種有らんや」。
- Q41. ▶ 答え：ア 句法は「使役」。書き下し「民をして耕さしむ」。
- Q42. ▶ 答え：イ 句法は「使役」。書き下し「民をして安んぜしむ」。
- Q43. ▶ 答え：ウ 句法は「使役」。
- Q44. ▶ 答え：エ 句法は「使役」。書き下し「民をして習はしむ」。
- Q45. ▶ 答え：ア 句法は「使役」。
- Q46. ▶ 答え：イ 句法は「使役」。
- Q47. ▶ 答え：ウ 句法は「使役」。
- Q48. ▶ 答え：エ 句法は「受身」。書き下し「笑はる」。
- Q49. ▶ 答え：ア 句法は「受身」。
- Q50. ▶ 答え：イ 句法は「受身」。書き下し「罰せらる」。
- Q51. ▶ 答え：ウ 句法は「受身」。書き下し「知らる」。
- Q52. ▶ 答え：エ 句法は「受身」。書き下し「法の禁ずる所と為る」。
- Q53. ▶ 答え：ア 句法は「受身」。書き下し「権臣の害する所と為る」。
- Q54. ▶ 答え：イ 句法は「受身」。書き下し「漢の囲む所と為る」。
- Q55. ▶ 答え：ウ 句法は「假定条件」。書き下し「如し王命ぜば」。
- Q56. ▶ 答え：エ 句法は「假定条件」。書き下し「若し許さば」。
- Q57. ▶ 答え：ア 句法は「假定条件」。書き下し「如し許さば」。
- Q58. ▶ 答え：イ 句法は「假定条件」。
- Q59. ▶ 答え：ウ 句法は「假定条件」。
- Q60. ▶ 答え：エ 句法は「假定条件」。
- Q61. ▶ 答え：ア 句法は「假定条件」。
- Q62. ▶ 答え：イ 句法は「逆接假定」。書き下し「小なりと雖も」。
- Q63. ▶ 答え：ウ 句法は「逆接假定」。書き下し「縦ひ難からんとも」。
- Q64. ▶ 答え：エ 句法は「逆接假定」。書き下し「縦ひ遠しとも」。

- Q65. ▶ 答え：ア 句法は「逆接仮定」。書き下し「縦ひ敵強しとも」。
- Q66. ▶ 答え：イ 句法は「逆接仮定」。書き下し「縦ひ言を費やすとも」。
- Q67. ▶ 答え：ウ 句法は「確定条件」。
- Q68. ▶ 答え：エ 句法は「確定条件」。
- Q69. ▶ 答え：ア 句法は「確定条件」。
- Q70. ▶ 答え：イ 句法は「比較」。書き下し「百聞は一見に如かず」。
- Q71. ▶ 答え：ウ 句法は「比較」。書き下し「巧詐は拙誠に如かず」。
- Q72. ▶ 答え：エ 句法は「比較」。
- Q73. ▶ 答え：ア 句法は「比較」。書き下し「之を知るは之を好むに如かず」。
- Q74. ▶ 答え：イ 句法は「比較」。書き下し「之を好むは之を楽しむに如かず」。
- Q75. ▶ 答え：ウ 句法は「比較」。
- Q76. ▶ 答え：エ 句法は「比較」。書き下し「怨みに居るは過ちを改むるに如かず」。
- Q77. ▶ 答え：ア 句法は「最上」。書き下し「子を知るは父に如くは莫し」。
- Q78. ▶ 答え：イ 句法は「最上」。書き下し「富を求むるは足るを知るに如くは莫し」。
- Q79. ▶ 答え：ウ 句法は「最上」。書き下し「人を用ゐるは長に如くは莫し」。
- Q80. ▶ 答え：エ 句法は「最上」。書き下し「国の宝は賢に如くは莫し」。
- Q81. ▶ 答え：ア 句法は「選択」。書き下し「二者孰れか賢なる」。
- Q82. ▶ 答え：イ 句法は「選択」。書き下し「仁と勇と孰れか尊き」。
- Q83. ▶ 答え：ウ 句法は「選択」。書き下し「守ると攻むると孰れか勝れる」。
- Q84. ▶ 答え：エ 句法は「限定」。書き下し「唯だ仁者のみ人を愛す」。
- Q85. ▶ 答え：ア 句法は「限定」。書き下し「唯だ道のみ是れ務む」。
- Q86. ▶ 答え：イ 句法は「限定」。書き下し「独り其の身を善くするのみ」。
- Q87. ▶ 答え：ウ 句法は「限定」。書き下し「唯だ道のみ従ふ」。
- Q88. ▶ 答え：エ 句法は「累加」。書き下し「己を利するのみならず、亦た人を利す」。
- Q89. ▶ 答え：ア 句法は「累加」。
- Q90. ▶ 答え：イ 句法は「累加」。書き下し「財を蓄ふるのみならず、亦た徳を積む」。
- Q91. ▶ 答え：ウ 句法は「累加」。書き下し「世に益するのみならず、亦た万代に及ぶ」。
- Q92. ▶ 答え：エ 句法は「累加」。
- Q93. ▶ 答え：ア 句法は「抑揚」。書き下し「死すら且つ畏れず、況んや其の余をや」。
- Q94. ▶ 答え：イ 句法は「抑揚」。
- Q95. ▶ 答え：ウ 句法は「抑揚」。書き下し「蟻すら且つ命を惜しむ、況んや人をや」。
- Q96. ▶ 答え：エ 句法は「抑揚」。書き下し「寒士すら且つ操を守る、況んや貴頭をや」。
- Q97. ▶ 答え：ア 句法は「詠嘆」。書き下し「賢なるかな、回や」。
- Q98. ▶ 答え：イ 句法は「詠嘆」。書き下し「遠きかな、其の道や」。

Q99. ▶ 答え：ウ 句法は「詠嘆」。書き下し「豈に壮ならずや」。

Q100. ▶ 答え：エ 句法は「詠嘆」。書き下し「何ぞ其れ明らかなるや」。